

春の政治斗争の高揚を勝ちとれ

日帝の侵略と革命陣線戦体制 先行的の斗争弾圧
攻撃を粉砕せよ

ソ連連邦のアフカニスタン進攻、軍事クーデターによるカトル政権の樹立という世界
的動向によって80年代の幕は開けた。イラン革命の余波は全世界に波及し、ニカラガ革命
の熱はますますあややます。北朝鮮後の朝鮮情勢も依然として揺れ動いている。米帝
が主催として各国同盟主義は中東でも巻き込みながら対ソ対米抗争をより一層激化して
いる。これらの事態、各年トナム勝利以降の新たな階級情勢の決定的な煮つきりは、我
々の歴史にいつもあるこの時代が80年代を占める激動の時代であることを指し示して来りあ
る。

日帝もまた自衛隊入りの事件、ソ連アフカニスタン侵襲を利用してナシヨナリズム、
排外主義運動を行ない、自衛隊の侵略と革命軍隊への一層の弾圧をはかっている。りんた
ンク80年日本革命同盟連帯者は同盟反革命軍事同盟の組織強化を促すにつれ、その中を日
帝がより積極的な位置を占めることになることを用ひたした。また朝鮮連帯同盟の「敵対的自
衛隊」にも用ひられるように日帝は一枚と公然とシヤも多量に侵略と革命軍隊入りを煽動している。
一方、国内に於ける社会、中国請求を権力の中に取り込み、帝国内部革命運動を有効し
る資本体制を構築して労働者階級人民への攻撃、攻撃を強め、革命家
の斗争、政治的秩序を破壊するその萌芽に至るまで徹底しを強圧を
加え、政治的民主主義の一切を覆下するといつて全社会的な規模
での先行的の斗争弾圧に血道をあげている。

我々は今こそ日本の反革命政治、民族排外主義攻撃、階級解体攻
撃に抵抗することなく、60ロレタリヤ同盟主義と組織された革命
の旗を鮮明に掲げようとしていかねばならない。

百六十年の清算攻撃、学生解解体攻撃
を粉砕せよ

80年代もまたに終わらんとする80年暮れ、わが京大において「一
の「セシモノ」」がとり行われた。名づけての言論闘争とその内容を
終え、新たに超反動派田が新委員長に就任した。我々はこの機会を代
刺を利権争いや権威争いと見做すに「この闘い」は、つたるルジヨア社
会のフェイェルターに燃らした燃めるべきであらうか。いや、我々は闘争の
「京大は回復への道を歩み始めた」、沢田の闘争路線を継承する旨
の二つの路線を日帝の自信に揺らした決意表明、反革命戦争遂行直
言として受け止めるはならない。京大斗争10年の歴史に於ける女
の闘いの象徴、全国闘争の清算攻撃である。とどまることの無い闘
争への責任、不承不承の責任、闘争を不承不承、批判を不承
不承、攻撃を不承不承の責任を不承不承の責任を不承不承の責任を
京大斗争10年の歴史を不承不承の責任を不承不承の責任を不承不承の責任を

弾圧と斗争

